

## 経済学研究科博士前期課程 研究指導計画

専攻・履修コース	経済経営政策専攻・経営学修士コース
研究目的・到達目標	特定の専門領域や問題分野において幅広い体系的知識とそれに基づく応用力（思考力，技法）をもって実践的問題解決能力を有すると認められる者に、修士（経営学）の学位を授与する。
研究指導体制・方法	博士前期課程の研究指導を担当する教員から指導教員1人，さらに学生の研究課題により必要に応じて副指導教員を配置する。リサーチ・メソッドに関する集団教育と，指導教員・副指導教員による定期的な個別指導を行う。2年次には，テーマ報告会，中間報告会，最終報告会において様々な分野の教員により幅広い助言・指導を行う。授業は，社会人の便宜を図り，平日夜間および土曜日に開講する。
研究指導内容	実践的問題解決能力を育成するため，学生が自ら設定した研究テーマに応じた体系的な専門知識の修得，課題レポートの作成等に関連した指導を行う。
年間研究指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生の研究課題に応じた研究計画の策定・指導</li> <li>(2) 実践的問題解決能力の育成に必要な授業履修計画の策定・指導（基礎的知識の修得のため1年次第1 Semesterにベーシック科目の履修，専門知識の修得のため1年次第2 Semesterにコース科目の履修）</li> <li>(3) 1年次第1 Semesterに「リサーチ・メソッド」，1年次第2 Semesterに「テーマ・サーベイ」の履修を義務付け</li> <li>(4) 2年次に，3回の報告会において課題レポートの進捗に関する報告の義務付け</li> </ul>
学位論文の指導体制・作成プロセス	<p>1年次第1 Semesterの「リサーチ・メソッド」を通じ課題レポート作成のための基礎的手法を修得し，1年次第2 Semesterの「テーマ・サーベイ」により具体的なテーマ設定を行う。2年次に「プロジェクト・スタディ」において「リサーチ・メソッド」「テーマ・サーベイ」の成果に基づきながらリサーチを含む個人研究を行い，課題レポートにまとめる。</p> <p>2年次には，テーマ報告会（5月），中間報告会（7月），最終報告会（11月）において課題レポートの進捗状況を報告し，様々な分野の教員から幅広い助言を受ける。</p>
学位論文審査体制・審査方法・評価基準	学位審査委員（主査1人・副査2人以上）が課題レポートの審査および最終試験を行う。評価にあたっては，課題の妥当性，視点の明確性，知識の応用度を重視する。
最終試験の評価方法・評価基準	最終試験は，課題レポートに関する20分の口頭発表およびレポート内容を中心とした40分の口頭試問によって行う。